

「こうべあいウォーク」復活

街の復興を確かめる

神戸・長田
200人参加

阪神・淡路大震災で被災した地域を歩いて街の復興を確かめる「こうべあいウォーク」が十一日、神戸市長田区で開かれた。二〇〇一年以来の開催に、約二百人が集まった。

初回から十年目になる今年、八年ぶりに開かれた。参加者の募金約二十三万円は、同基金を通じて市民活動に助成される。

田区内の製糖工場に務めていた。「直後の燃える街、その後の空き地だらけの街などずっと見てきた」と感慨深い様子。

特定非営利活動法人(NPO法人)「しみん基金・KOBÉ」などの主催。一九九九年に始まったが、運営資金不足などのため中断し、

JR鷹取駅南東の大団公園を出発、スタッフの案内で歩き、約三時間かけて御蔵北公園に到着した。

震災当時は大阪に住んでいた関西学院大学三回生の多田菜津美さん(三〇)「西宮市」は「被災地とは思えないほどきれいな住宅地。語り継がないと、震災の記憶が途絶えてしまいそう」と話していた。(金 慶順)

毎回参加している無職高木市郎さん(モセ)同市須磨区「は震災当時、長い



街を歩き、復興の状況を確認する参加者＝神戸市長田区海運町